

一般財団法人
全国大学実務教育協会

March
2024

第25号

会報

協会設立50周年を迎えて

講演会

文部科学省高等教育局 企画官
(併) 高等教育企画課 高等教育政策室 高見 英樹 室長

「大学の人材育成に期待すること」

一般社団法人 日本経済団体連合会 SDGs本部 池田 三知子 本部長

「Society 5.0に向けた大学教育と採用に対する考え方」

聖徳大学学長特別補佐・教授 山梨県立大学 特任教授

一般財団法人全国大学実務教育協会 清水 一彦 代表理事・副会長

「実務家教員養成プログラムの実際と今後の重要性」



一般財団法人 全国大学実務教育協会
Japan Association of University and College for Business Education

CONTENTS

代表理事・会長挨拶	02
協会設立 50 周年記念講演会・祝賀会	03
2023 年度開催教職員研修・講座	08
会員校紹介 札幌国際大学	09
実務教育優秀教員被表彰者寄稿文	11
協会からのお知らせ	13

協会の発足と使命

協会が発足した1973年のころ、まだ実務教育のことが話題にもならなかった当時、社会で活躍できる実務の素養と人間力を備えた能力開発に着目し、大学・短期大学における秘書教育課程を開発して、資格を授与することになりました。こうして本協会前身の全国短期大学秘書教育協会が始まりました。続いて、情報処理教育課程、ビジネス実務教育課程などを開発し、資格を授与してきました。

その後、協会の名称を全国大学実務教育協会と変更し、時代の要請や社会のニーズを捉えて、実務教育に関わる数多くの教育課程を開発し、資格を授与することとなりました。以来、初期のめざしてきた方向、つまり社会的に役立つ人間力を備えた実務教育の資格授与、実務教育研究の推進、大学・短期大学における実務教育の在り方を追求することを本協会の使命として堅持しています。

協会の事業方針

- 本協会は、実務教育・キャリア教育はどうあるべきかを問い続けその実践をリードし、もって大学・短期大学教育の質的転換に貢献します。
- 本協会は、対話を通して産学官民との連携を密にし、社会の変化に対応し、社会を創る人材育成に取り組めます。
- 本協会は、実務教育・キャリア教育に関わる認定事業の質保証を図るために導入した評価制度を推進します。
- 本協会は、大学・短期大学における能動的学修をリードする教員及び実務家教員の教育力養成並びに教学マネジメント養成を推進します。

本協会が捉える「実務力」とは

どのような職業に就いて働く場合でも私たちは様々な実務を担って責任を果たしています。実務力とは、特定の知識・技能だけを意味するのではなく、自分の持てる力を活かして結果を出す人間力を含む総合的実践力が実務力の中核であると捉えています。

資格教育課程の質保証方法とは

一人ひとりの資格教育課程の修了者の質保証をはかるには、大学における単位認定結果(GPA等)に加えて、学修者自身による資格到達目標達成度評価結果(学びの自己評価と継続課題等)の明確化が求められます。この質保証の考え方のもと、2023年度より本協会は、資格到達目標達成度評価制度を導入し、新たな評価方法(協会独自のものまたは大学オリジナルなもの)を順次導入していきます。

協会のめざす実務教育とは

本協会の実務教育とは、「実社会を知り、自分を知る」を基軸におく人間力をベースに、実務を推進する総合的実践力を基本において育成をはかるものです。この幅広い実務実践力は失敗や成功を伴う体験学修を重ね、自ら獲得していくものであると捉えて、本協会の種々の資格教育課程を提案しています。

01 } 協会設立 50 周年を迎えて



一般財団法人 全国大学実務教育協会
代表理事・会長
森 征一

ご挨拶

本協会は昨年、設立50周年という大きな節目を迎えました。これもひとえに大学および短期大学(以下、「大学」とする)における実務教育の重要性をご理解しご支援をくださった会員校等の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

本協会はこれまで、資格認定を通して大学と社会をつなぐ人材の育成に努めてきました。学生の大半が大学で学んだ後、社会に出て働く以上、大学には学びを仕事に活かす実務教育が必要であり、しかもそれが理論教育と併存してしかるべきであろうと考え、本協会は1973年(昭和48年)に他に先駆けて資格教育課程の開発に取り組み、資格授与等の事業を開始しました。

以来、資格認定については時代や社会のニーズに応えるため、資格のリニューアルや新資格の開発を行ってきました。また、国の教育改革の動向を見据えながら、資格の質保証に向けて、資格評価制度の導入に取り組むとともに、実務教育を担う教職員の養成を行う研修講座事業も展開してきました。

時代は今、デジタル社会に向かって急激に変化し、生成AIの出現が産業構造に大きな影響をもたらして人々の働き方を変える中で、実務教育の重要性はますます高まってきているように思います。

そこで、昨年、本協会が設立50周年を迎えたのを機に、例年、産学官連携で実施される会員校等代表者交流会を「協会設立50周年記念」という冠をつけた講演会として開催させていただきました。産学官の各界から講師の方々をお招きして、「大学における人材育成について」の貴重なお話をお伺いすることができました。ご講演いただいた講師の方々に厚くお礼申し上げますとともに、お伺いしたお話を深くかみしめながら、本協会は次の50年に向かって大学と社会をつなぐ教育のあるべき姿を求め、着実に歩み続けていきたいと思っております。

本協会が目指す究極にあるものは、大学教育における理論教育と実務教育の調和のとれた接続であり、それによって「知っている知」(思考)と「使える知」(活用)がつながり、人間力と実践力をもつ人材の育成が可能になると考えます。したがって大学に強く求められているのは、学士号と協会資格の二つの称号をもつ二刀流の人材の育成です。

資格は社会を映す鏡であると同時に、自らを映す鏡でもあります。いつの時代もその時代に適した能力が求められます。それを証明するのが資格です。

本協会の資格も、時代を物語るように、鏡には秘書士をはじめとして様々な資格が映し出されてきましたが、このたびそれらに加えて新資格が映し出されることになりました。

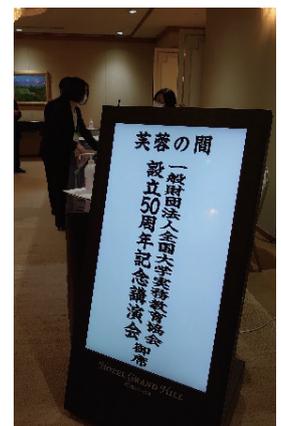
この新資格とはデジタルリテラシーを身につける『データサイエンス・AI実務パスポート』です。本協会はデジタル社会に対応する資格の開発に取り組んできましたが、それが奇しくも本協会が設立50周年を迎えた記念すべき年に実を結んだことは望外の喜びです。

新資格は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の趣旨に沿うものでもあり、学生が社会に出て、どのような分野で仕事をしようと必要とされる資格であることから、会員校の全学生にぜひ取得していただき、時代を先導する顔として活躍してほしいと願っております。

最後になりますが、私事で恐縮ですが、かつて学長を勤めていた大学では、卒業式で本協会の資格取得者に認定証を授与しておりました。私にとっては初めての経験でしたが、そのときの誇らしげな笑顔の学生と感動の涙を拭う保護者の姿を見て、本協会の資格認定証の重みを知りました。

本協会は50年という半世紀に及ぶ歴史のもと、65万人を超える多くの学生に資格を授与してきたという実績もっていますが、特筆すべきは、その資格が大学の正規の教育に裏づけられた堂々たる資格であるということです。それは学業に励んだ学生のみが取得できる資格ですから、私は卒業式で学生の頑張りに拍手をおくりたいと思っております。

本協会の会員校の皆様には是非とも学生に協会資格の取得をおすすめくださるようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



02

一般財団法人全国大学実務教育協会 設立 50 周年記念講演会・祝賀会

今年度は1973年に当協会の前身である短期大学秘書教育協議会が設立されて50周年にあたり、その記念事業として2023年12月15日に、ホテルグランドヒル市ヶ谷において講演会・祝賀会を開催しました。

記念講演会・祝賀会では、4つの事業方針のもとに歩

んできた当協会の足跡を振り返り、新しい一步を踏み出す機会として、協会の歴史を作られた役員・評議員の方々へ感謝の意を表すとともに、大学と産業界をつなぐハブ的役割を担う当協会として文部科学省及び経団連から講師をお招きして講演をしていただきました。

1. 記念講演会

12月15日午後3時から4時20分まで、ホテルグランドヒル市ヶ谷の大会場「芙蓉」に41名、リモートで46名、合計87名の大学・短期大学の理事長及び学長などの方々が出席され、福井洋子理事の司会により記念講演会を開催しました。産学官それぞれの立場から最新の情報を伝える交流会としての講演会では、今年度のテーマを「Society5.0に向けた大学の人材育成への期待」としてご講演いただきました。



「大学の人材育成に期待すること」

文部科学省高等教育局 企画官（併）高等教育企画課 高等教育政策室 高見英樹 室長

高見英樹氏は、「大学の人材育成に期待すること」と題して、現在の日本の状況に鑑みて日本の未来を支える人材像、そしてその人材を育成する大学に期待することについて述べられました。

1. 我が国を取り巻く現状について

日本の現状は、人口減少が進み、GDPが減少し、労働生産性がOECD平均よりも低く、また、世界のデジタル競争力ランキングで29位と低迷し、先端のIT人材が大きく不足している。また、将来、日本の産業別の労働需要は現在よりも大きく変化することが予測され、DXやGXの課題が山積している。また、我が国には、課題を解決する人材が不足しているにもかかわらず、諸外国に比べて課題を解決しようとする意欲のある若者が少ない。また、日本人の海外留学生の数が10年前の約半分と減少しており、グローバルな視点を持った若者が減少している状況である。

2. 未来を支える人材像について

このような日本の現状から、将来の日本を支える人材について、内閣の下に設置された「教育未来創造会議」では次のことが提言されている。

①人材像

- ・自分で課題を設定し深く掘り下げる人材
- ・多様な人とのコミュニケーションを取りながら、新たな



価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材

②必要な能力

- ・問題発見力、的確な予測、革新性

また、「中央教育審議会」では、総合知の創出・活用が重要であり、そのためには人文社会学と自然科学の融合を進める必要性及び文理横断教育や文理融合教育の必要性について審議されている。次の4つがそのためのアプローチである。

- ア. リベラルアーツ教育を中核にしたプログラム

- イ. データサイエンスなど分離横断的な学問分野のプログラム
- ウ. 課題解決力の涵養に重点を置いたプログラム
- エ. STEAM教育等の全学的必修化など一般教育における文理横断教育

文理横断型教育の取り組みはいくつかの大学で行われており、また大学入学選抜の改革も大学入学共通テストを思考力・判断力・表現力などに転換している。

各大学で改革を更に進めていく際に、教学マネジメント指針及び3つのポリシーをしっかりと認識しながら進めていただきたい。

3. 大学等の機能強化について

日本の大学は、この30年間学科別構成に変化がない。また理工系の学生の割合が諸外国で増加しているにもかかわらず日本では殆ど変化していない。調査結果では、自然科学の学位取得数が米英韓よりも少ない状況であり、日本の高等教育が今後目指さなければならないことは次のことである。

- ・自然科学専攻の学生数を世界トップレベルの5割になることを目指す
- ・分離横断的な教育を推進する。5～10年程度で大学の主体性で作っていただく
- ・デジタル人材の育成。これは政府全体で取り組んでいる
- ・数学的・科学的リテラシーの教育
- ・理系、農業系分野への女性比率のアップ
- ・データサイエンスの教員不足への取り組み
- ・日本人学生の海外留学の推進。世界で活躍する土壌づくり
- ・STEAM教育、デジタル及びグリーンの人材育成

4. 今後に向けて

高見氏は、文部科学省が今後に向けて行うこととして、2040年に大学進学者数が現在より約20%減少する状況にあることを踏まえて、「急速な少子化が進行する中で将来社会を見据えた高等教育のあり方について」の課題を2023年9月に中教審に諮問したと述べられました。

「Society 5.0 に向けた大学教育と採用に対する考え方」 一般社団法人 日本経済団体連合会 SDGs 本部 池田三知子 本部長



池田三知子本部長は講演会当日に業務都合があるため事前に収録した講演を会場で映写しました。

池田氏は、経団連の業務内容の紹介に引き続き、経団連と国公立大学のトップで構成される“採用と大学教育の未来に関する産学協議会”において学生のキャリア支援活動やリカレント教育推進の具体的なアクションに向けて産学が協働して協議していることを5つの項目に分類して述べられました。

1. 経団連が実現を目指す未来社会の姿

経団連では、今日のSociety5.0社会において、デジタル技術とビッグデータを駆使し、かつイマジネーションとクリエイティビティを発揮して社会課題を解決し、新たな価値を創造する人間中心の社会を目指している。またSociety5.0社会の実現を通してSDGsの達成に取り組んでいる。

2030年に実現する未来像は、サステナブルな資本主義を確立することであり、そのためには、産業界即ち企業等が様々なステイクホルダーと対話をするることによって価値を共創していくこと、そのためのアクションを起こすことが求められている。

2. Society5.0で求められる人材像について

Society5.0で求められる能力と資質は、①リテラシー、②論理的思考力と規範的判断力、③課題発見・解決力と未来社会の構想・設計力、④高度専門職に必要な知識と能力であり、これらの能力の基礎にはリベラルアーツ教育が重要である。またこれらの能力は初等教育から高等教育までの全ての段階の教育に関わり、大学院レベルの教育と社会人になってからのリカレント教育・学び直しも重要になる。

採用の観点からは次のような能力・知識を期待する。

- (1) 特に期待する能力は、「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」、「創造力」
- (2) 特に期待する知識は、「文系・理系の枠を超えた知識・教養」

この能力・知識を実現するにはリベラルアーツ教育や文理融合教育が重要である。また、企業では多様な人材を求めていることにも留意していただきたい。

3. 雇用・人事制度の改革に向けた動きについて

企業では多様な人材を採用するために、従来の日本型雇用システムの見直しをし、次のような制度に変換している。

- ①採用方法の多様化：新卒一括採用から通年採用や経験者採用への切り替え及び職種別採用やコース別採用
- ②ジョブ型雇用の導入・活用
- ③エンゲージメントを高める処遇制度
- ④人材育成とキャリアパス

このような変化の状況にあって経団連では『仕事と学びの好循環の確立』を提唱しており、この好循環の確立のために、大学等の教育機関へ期待することは、内外の環境変

化に対して感応度を高めることと、教育内容を不断に見直すことであり、また、大学には社会人の学び直しの場の役割も期待されていて、仕事と学びの好循環を通じてWell Beingに貢献し、経済社会が継続的に発展していくことがSociety5.0時代のSDGsの成長戦略である。

4. Society5.0における大学への期待について

大学には、新しい時代のニーズに対応した教育に向けて教育内容を不断に見直してほしい。その上で、大学の全てのステイクホルダーから認められる特色を生かしたブランド戦略をとってほしい。

また、3つのポリシーのうち特にディプロマポリシーによる質の保証の強化をお願いしたい。そして、大学には、地域における知の中核拠点としての機能も強化してもらいたい。

5. 産学官連携・協働による人材育成の重要性について

(1) 質の高いインターンシップをはじめとした学生のキャリア形成支援活動

Society5.0の変化の激しいこの時代に企業が求めている人材は、多様な人材かつ自ら課題を発見して解決できる能力である。企業はイノベーション創出に向けて雇用も多様化と複線化が進展している。企業と大学が連携・協働して学生のキャリア形成を支援し、学生が早いうちに自分のキャリア形成を主体的に考える機会を提供してほしい。「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」では、変化の激しいこのVUCAの時代に多様な人材と技術的キャリア形成のために産学が連携して学生のキャリア形成を支援すべきであることを合意した。

日本におけるインターンシップの現状を見ると、就職活動にメリットがあることを目的として、業務体験の全くないインターンシップも存在している。これは、海外のインターンシップと大きく乖離しており、外国人留学生の参加が困難な状況になっている。

経団連では学生が職場での業務体験を通じて仕事の楽しさや厳しさを認識して自らの能力を見極めるきっかけ作りになる新しいインターンシップの定義を『学生が、その仕事に就く能力が自ら備わっているかどうかを見極めることを目的に、就業体験を行う活動』とし、インターンシップの5要件を①就業体験要件、②指導要件、③実施期間要件、④実施時期要件、⑤情報開示要件とした。

また、学生のキャリア形成にはインターンシップだけでは不十分であるとしてキャリア形成支援活動を、①オープンカンパニー、②キャリア教育、③汎用的能力・専門活用型インターンシップ、④高度専門型インターンシップの4つに類型化した。

そして、産学協議会で合意したインターンシップの5要件の基準を満たした質の高いインターンシッププログラムに対して、産学協議会基準準拠マークを使用できることを2022年に決定した。

(2) リカレント教育の推進

リカレント教育は、企業や働き手だけでなく、大学にとっても社会人学生を対象とした新しい教育機会の創出や知の拠点としての価値向上が期待できる。

リカレント教育プログラム推進のために検討すべき重要課題は次のことである。

1) 4つの類型化: ①企業側ニーズと大学側シーズの把握、②企業側ニーズと大学側シーズに関するマッチング、③実施形態の改善、④政府・地方自治体の支援

2) 3つの分野: ①DX、②グリーン成長・GX、③地域活性化

企業側ニーズと大学側シーズの把握の課題は従来殆ど把握されていなかった重要課題であり、産学協議会では、業種横断的な3つの分野において大学と企業との調整を行い、企業側ニーズと大学側のシーズをデータベースとして整理した。

また、特に大学の強みを活かせるリカレント教育プログラムとして次の4つを挙げられた。

①理論と実践知の融合を通じて社会実装に必要な能力の向上・手法の獲得に資するもの、②異業種・異分野交流を通じて、新たな価値共創やイノベーションに資する分野横断的知識・能力の獲得・向上に資するもの、③高度経営人材の育成を主目的としたもの、④地域特性に対する深い理解に基づき、地域課題の解決に取り組むことを主眼としたもの。

また、今後の課題として次のことを挙げられた。

A. 大学と企業双方で取り組むべきこととして、①企業のニーズと大学のシーズの情報交換、②企業と大学の情報発信の向上、③コーディネイト人材の育成・確保。

B. 主に大学が行うこととして、①プログラムの受講で得られる学位、単位、履修証明等の種類やレベル内容の明確化、②企業ニーズを勘案した学位、単位、履修証明の検討や設置、③マイクロクレデンシャル制度の活用を検討を挙げられた。

C. 主に企業が行うこととして、①リカレント教育の受講・修了に向けた社内環境の整備、②学んだことを活かせるポストへの配置、処遇の加点などを挙げられた。

最後に、現在はリカレント教育の定着の過渡期であり、大学では、良質なリカレント教育プログラムが5年を超えて定着する仕組みやインフラを整備する施策を講じるべきである。そのためには、企業側のニーズと大学側のシーズをマッチングさせる公的コーディネイト機能を強化するべきであると述べられました。



「実務家教員養成プログラムの実際と今後の重要性」
聖徳大学学長特別補佐・教授、山梨県立大学 特任教授
一般財団法人全国大学実務教育協会 清水一彦 代表理事・副会長

清水一彦氏は、実務家教員の需要が高まっている今日、なぜ実務家教員なのか？という問いかけから始まり、実務家教員の必要性について次のように述べられました。

1. なぜ実務家教員か？

- ・大学の起源の中世ヨーロッパでの教育は、法律家、医師などの職業教育が主体
- ・戦後の日本では、専門職大学院のロースクール、ビジネススクールなどの創設を機に職業教育分野が台頭
- ・2020年に高等教育の無償化要件の一つとして実務家教員担当科目が1割相当の必要性
- ・令和の大学設置基準改正
2022年に基幹教員制度
2023年に教員養成学部の教員には2割以上の実務家教員の必要性

2. 日本の大学改革の現状について

大学の大量化時代は終わり、超多様性のユニバーサル時代に入った。日米の大学改革の比較を見ると、大学の大量化で日本はアメリカよりも22年の遅れがある。学生だけがユニバーサル化しているが、教員もユニバーサル化しなければならず、ユニバーサル化に対応した大学改革が追い付いていない。マーチン・トロウが70年前に言ったモデルが今の日本の状況である。

3. 全国大学実務教育協会の講座のコンセプトと制度設計について

当協会は、大学改革を先取りするかたちで研修講座を実施してきた。

- ・2014年に能動的学修(アクティブ・ラーニング)研修開始
- ・2019年に実務家教員養成講座開始

実務家教員養成講座を開講するにあたり会員校の理事長・学長にアンケート調査を行い次の回答を得た。

- ①実務家教員は必要
- ②必要な分野・領域は、キャリア教育及びビジネス以外の専門教育
- ③実務家教員に求めるものは、教育分野の専門性、大学理解
- ④実務家教員の問題点は、教育実践、研究業績、大学理解、学生理解

アンケート結果を踏まえて講座の制度設計を行った。

- ・目的:「研究力」や「マネジメント力」を兼備した未来志向型の大学人の育成を目指す。
- ・修得能力:大学力、マネジメント力、授業力、イノベーション力
- ・学修方法:講義、アクティブ・ラーニング、ワークショップ、演習
- ・対象:幅広くオール社会人
- ・特徴:ルーブリックによる自己評価、学びの技法、授業デザインの事例研究、実践事例研究の交換による参加者交流



三大特色:①圧巻のテキスト、②アクティブな学び(自由討議・ワークショップの導入)、③充実した講師陣(複数の理事長・学長経験者含む)

4. 実績と今後の展望について

当協会の研修講座は2014年度から始まり現在4講座を実施している。2023年度までの受講者数はトータルで約400人、大学実務家教員養成講座は約50人にのぼる。また今後の研修・講座の展望は次のことである。

(1)現在の4講座を再編して2講座にし、更に充実した内容にする。

＜再編後＞	＜現行＞
● 教学マネジメント 教職員研修講座	<ul style="list-style-type: none"> 能動的学修の教員研修リーダー講座 FD教職員実践研究会 教学マネジメント実践講座
● 大学実務家教員 養成講座	

(2)新たな試み

2023年度から、大学実務家教員養成講座の受講生のうち大学教員を希望する方に、「実務家教員紹介履歴書」を当協会へ出してもらい、会員校へ紹介するという取り組みを始めた。

(3)文部科学省での取り組み

2019年に持続的な産学共同人材育成システム構築事業として実務家教員等育成のための研修講師養成プログラムが始まった。

5. 基幹教員制度について

基幹教員制度は、令和7年度から各大学で導入され、企業に籍を置きながら大学の専任として勤務できる新しい制度である。基幹教員としての要件はカリキュラム編成等に責任を負うこと及び主要な授業科目を担当すること

などである。基幹教員として実務家教員が特にDX分野でますます活躍できるようになるであろう。

※以上の文章は、講演及び講演者の資料を元に記述したものです。

II. 記念祝賀会

祝賀会は、和式の間の「葵」に43名の方々が参加され、山下恵子理事の司会により盛大に行われました。参加者は、法人設立当時の評議員、役員をはじめ設立以来現在までの評議員、役員、職員及び各委員会の委員、会員校等代表者交流会の講師の方々などでした。

まず、法人設立時に評議員としてご活躍された谷本榮子顧問から、当協会の足跡を振り返るとともにこれからの当協会への期待を込めた開宴のお言葉をいただき、引き続き、法人設立にご尽力いただいた評議員及び役員の方々へ森征一会長から感謝状が贈呈されました。欠席された方も含め受彰された方々は、菅野英孝様、清水一彦様、館 昭様、田中敬文様、谷本榮子様、岡村隆臣様、森脇道子様、加藤晃様、松畑熙一様、大河原量様、木内秀俊様、福岡登様、越原一郎様、佐藤弘毅様でした。

受彰された方々からは、法人設立当時のご苦労話や、今後の当協会への期待などの謝辞が述べられました。

引き続き、テーブルに並べられた料理を前に、坂田甲一評議員から乾杯のご発声をいただきました。

乾杯の後、皆様それぞれがかつてともに当協会のために仕事をされたことの思い出を語られたり、現況について話されたりして歓談の時を過ごされました。また、当協会スタッフがマイクをお持ちしてできるだけ多くの方々からテーブルスピーチをしていただきました。また、清水一彦代表理事・副会長から定評の替え歌を披露していただき、絶妙な歌詞に皆様が笑顔で聞きほれていたことが印象的でした。楽しい2時間もあっという間に過ぎ、加藤博監事から閉宴のお言葉をいただきました。

お帰り際には、会長、副会長、事務局長が並んで皆様にお礼の言葉をお掛けし、皆様からは今後への期待の言葉をいただくなど、素晴らしい設立50周年記念祝賀会となりました。



谷本榮子顧問(関西外国語大学理事長)の開宴のことば



感謝状の贈呈



懇親のひととき

03 2023年度 教育者養成講座・研修事業

第10回「能動的学修の教員研修リーダー講座」

本講座は、コロナ禍が収まってから2年目の開催となりました。今年度はアルカディア市ヶ谷において8月26日、27日、9月23日の全3日間に及ぶ講座を対面で開催し、札幌、山形、茨城、神奈川、愛知、兵庫など全国各地から11名の先生及びビジネスマンが参加されました。本講座は文科省が検討し2013年に閣議決定された「第二期教育振興基本計画」に基づいた教育の質的転換を推進するために当協会の研修事業として2014年度から始まり延べ180名を超える学修者を数えるに至っています。講師陣は当協会の代表理事・副会長である聖徳大学学長特別補佐の清水一彦教授をはじめ計3名の専門の講師が担当しました。



受講された先生方からは、「講座で学んだことを参加者の皆さんが大学に戻ってどのように活かしているかを共有したい」「学んだ内容を授業に活かし学内のFD、SDに反映させたい」などの感想を聞くことができました。

第9回「FD 教職員実践研究会」



FD教職員実践研究会は、2014年度の開始当初は「能動的学修の教員研修リーダー講座」の応用編として、その修了者だけに限定した研究会でしたが、2019年度から対象者を大学でFD、SDに関わっている教員・職員に拡大しました。今年度は9月24日にアルカディア市ヶ谷にて対面で実施し、10名の方々が参加されました。

今回の事例発表には、2018年度の「能動的学修の教員研修リーダー講座」に参加した後、学内のFD活動にご活躍されている尚絅学院大学総合人間科学系教授 太田健児氏をお迎えし、「FDの実践と課題—尚絅学院大学の実践—」と題して発表していただきました。太田氏は、当協会の能動的学修の教員研修リーダー講座で学んだ内容をもとに学内のFD研修会で『大学の授業改善についての取り組み』と題して講演され、その中で「絶望的につまらない授業をどう克服するか?」と参加者の先生方に課題を投げかけ、つまらない授業の特徴を分析するなどして授業改善に取り組みされたことを語られました。最後に、今後取り組むべき課題として“学生に何を教育したのかを常に自問自答すること”などが必要である、と述べられて研究発表を締めくくられました。

第2回「教学マネジメント実践講座」



主に大学運営に携わる皆さまを対象とした本講座は、当協会初のオンライン限定での開催講座で、第1回目より、リモート研修のプロフェッショナルであるカンクロ株に運営の一部を委託し、ZOOMで開催しました。ワークショップ、グループ討議など対面と変わらない研修成果があり参加者の皆さまには大きな好評を得ることができました。今年度も8月4日、9月1日に開催し、受講者は学長、学部長、教育企画部長、IR部門スタッフなど大学の教学運営に責任ある6名の方々が全国各地から参加されました。

教学マネジメントは2018年の中教審答申を受けて策定された「教学マネジメント指針」に基づく大学教育の質向上を目的としたもので、本講座の第1日目は「学習成果・教育成果の可視化に向けて」をテーマに、午前中のプログラムは『内部質保証システムの実践事例の紹介』、午後は『教学マネジメント基盤としてのFD・SD及び教学IRをどのように進めるか?』の講義の後、『教学マネジメント改革の推進』をテーマにしたワークショップで活発な討議と発表が行われました。第2日目は、「大学制度の正しい理解と経営・教学改革」をテーマに「大学のブランド化を目指す改革事例—山梨県立大学の地方創生事業—」と題する事例発表をもとに、討議し発表が行われました。

第4回「大学実務家教員養成講座」

産業界等で実績を残した専門家を実務家教員として迎える大学が増えている中で、本講座は実務家教員あるいは教員希望の実務家の方々に大学教員の役割、研究活動、教育力、授業の持ち方、シラバス作成など、大学教員としての実践力を修得していただき、修了認定証を授与する講座として多大な評価を得ています。今年度は、既に大学で活躍している実務家教員や企業経営者及び大学教員を目指すビジネスマンなど5名の方が参加され、活発なグループ討議をしました。本講座は、A領域とB領域に分けて計4日間行われますが、A領域では「大学とは何か」「大学教員の役割と機能」をテーマに、高等教育政策と各大学の課題、大学の組織力強化、また研究活動と成果のまとめ方などを学修し、B領域では「大学の授業とは」「大学の人材育成と多様化する学生」をテーマにして授業デザインとシラバス作成、学修支援者との連携などを学修しました。



04 } 会員校紹介 札幌国際大学



学長 蔵満 保幸 先生

常に学生を伸ばすことに集中

—札幌国際大学の特色を教えてください！ 札幌国際大学の特色として四大の学部では、今の社会のニーズに応えられるよう人文・観光・スポーツ人間

学部と3学部開設しております。人文学部の国際教養学科は、開設2年目になりますが、多文化言語コースではクォーター制とし、全員が2カ月間カナダ留学研修をする特色があります。学生は海外研修を通して、多くを学び成長して帰ってきます。3年生になってからの海外研修は少し長めに留学できるカリキュラムを組んでいます。クォーター制のメリッ

トは、授業の取り方によってはインターンシップの時間を持てたり実習に出たり組み合わせが自由に出来るのでこれまで留学をためらっていた学生も行きやすくなりますし、選択の幅が広がります。講義は、ひとつの物語を形成して授業をつくっていかないと興味を持ってもらえないためアクティブラーニングを取り入れた講義を行うようにしています。

「学生第一」「国際化」「伸びしろ日本一」という教育理念のもと、学生をいかに伸ばしていくか地域支援やコミュニケーションを通して経験を多く積んでもらいたいと考えております。



キャリア支援センター長 教授 平塚 彰 先生

キャリア支援の情熱家

—札幌国際大学の就職率はいかがですか？ スポーツビジネス学科の就職率は毎年100%を保っております。しかし、入社してから3年以内に3割

の学生が辞めてしまう現状があり、就活の時に複数社からしっかりと選択していない、複数の職種を見ていないというケースも多々ありますので、離職率に関しても重点をおいたキャリア支援をしようと努めております。

—産業界に対してどのような働きかけをしていますか？

キャリア支援センターとして、企業が求める人材や必要な能力を把握し、キャリア教育のあり方を考察するために100社を一社一社巡り本学の魅力について説明して回りました。また、何に重点を置いて大学4年間を過ごしているかを理解していただくための冊子を作成して、企業に配り、就業先において役立つ人材であることを理解していただくよう働きかけております。



教務課長 辻 拓 先生

入口から出口まで一貫してバックアップ！

広報は広報、教務課は教務課と分業分担しているのではなく、入口から出口までを頭に入れて仕事をされている辻

教務課長は就職支援からキャリアをスタートされた。他部署とも風通し良く連携することで円滑なコミュニケーションのもと、日々の学生支援に努めていらっしゃる。

—学生に人気がある資格を教えてください

本学では、こども音楽療育士や、ガーデニングの演習や施設に行き実際に土いじりする実習のある園芸療法士に興味を持っている学生が多いと思います。園芸療法士については、社会福祉施設で勤めている社会人からのニーズが多くあったので社会人用に展開していた時もありました。



人文学部 心理学科臨床心理専攻 教授 品川 ひろみ 先生 教務部長

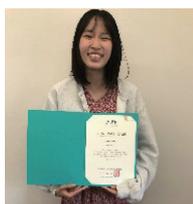
しなやかに、しっかりと教育！

—人文学部 心理学科の特色について教えてください

本学の心理学科では「園芸療法士」が人気があり、本学でしか取得できないということで、他学と差別化ができています。「保育音楽療育士」は保育を学んでいる学生でないと取れない資格として、また将来、人の役に立ちたいと考えている学生には「カウンセリング実務士」の資格もお薦めしております。

—教務部の課題を教えてください

教務部の課題といたしましては、「変えないためには変えなければならない部分がある」つまり、本学が存続して、地域や社会が必要とするスキルを持った学生を輩出することが必要であると考えております。教育の仕方も工夫をして色々な方法を考えてやっていく必要があると思っております。学生が社会に出てからも社会の荒波にたくましく耐え、社会に貢献でき、そして役に立てる学生を輩出していきたいと考えています。



人文学部心理学科子ども心理専攻 4年生 **長瀬 あやめさん**

—札幌国際大学を選んだ理由を教えてください

心理学に興味があり、心理学科で子ども音楽療育士、心理士が取得できることを知り札幌国際大学を選びました。資格があればあるほど子どもとのコミュニケーションの幅も増えると考え、現在では通常の授業に30単位を追加して保育士の資格、幼稚園教員の資格、園芸療法士の資格、認定心理士、こども

音楽療育士を取得することができました。

—札幌国際大学のいいところを教えてください

自然が豊かなキャンパスで、附属認定子ども園も近くでありフィールドワークの授業や幼稚園実習などで関わることが魅力です。

子どもが好きなので保育園に就職したいと考えております。ゼミの先生が関係している園に見学させていただき就職に向けて学んでいるところです。



札幌国際大学 卒業生 **秋野 尚也さん**

卒業後、札幌国際大学の教務課で働いています！

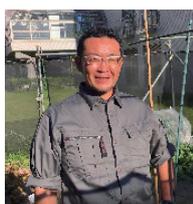
—就職活動するなかで資格について訊かれることはありましたか？

在学中に、「実践キャリア実務士」とスポーツインストラクターの資格を取得しました。就職活動をする中で、資格について聞かれることもありましたが、実践キャリアについ

ては、授業のなかで学んできたこと、社会に出る上で基盤ともなり得る資格です、と説明しました。

—在校生の方々へひとことメッセージをください

社会に出る前の大学の4年間というのは、基礎を固める場であると考えます。活発にアクティブにいろいろなことに挑戦してもらい、自分のやりたいこと・好きなことに貪欲に取り組む4年間であってほしいと思います。



人文学部 心理学科 准教授 **吉崎 俊一郎先生**

—「園芸療法士」「園芸療法」について教えてください

園芸療法は、草花や野菜などの園芸植物や身の回りにある自然とのかかわりを通して、心の健康、体の健康、社会生活における健康の回復を図る療法のことです。コミュニケーションを取ること自体にプレッシャーや緊張を覚えやすい時にもそこに植物があって皆で花を育てようねとやっていくと同じ共通目的でリラックスした状態で自然に話せたりします。園芸療法士は植物



のある環境がひとに与える影響や、草花や野菜を育てることから得られる効用を理解した上で、園芸療法を行う者のことです。野菜は実がなって食べら

植物から学べるコミュニケーションの魅力

れるし、時間の経過とともに皆さんと達成感も得られます。共通の話題で楽しめるというメリットもあるのです。土いじりをしながら仲間づくりが出来るのも良いですね。

—学生が園芸療法士の資格を取るために授業を受けて学んだことはなんですか？

命のあるものを育てる、時間をかける、実を付けたり大きくなって育つ植物は言葉を発さないですが必ずこちらの行動に応じてくれる存在。自分で感じて、考える。自分に自信がついたり、他者に目を向けることが体系的にできるようになってくる。栽培した達成感や待つことの忍耐力、人として成長させてくれる上にそこからは多様なコミュニケーション力を学ぶことができるのです。



自然あふれる環境に恵まれた札幌国際大の魅力をお伝えいたしました。生き生きとした学生、情熱的に学生のことを考えサポートする教育熱心な先生方、教務課とキャリア支援センターの垣根を超えた協力体制。また、ともに草木や野菜を育て土いじりから育まれるあたたかいコミュニケーションはどの立場の人にとっても深い恩恵を与えてくれるものと思います。

我が校も是非取材してほしい！会員校の皆様のご一報をお待ちしております。

[取材担当 風戸]

05 } 優秀教員寄稿文



大妻女子大学短期大学部
家政科生活総合ビジネス専攻
教授
いけがしら あつこ
池頭 純子

インターンシップ教育の重要性

この度は、実務教育優秀教員として表彰していただき、誠にありがとうございます。本専攻では2011年の創設以来独自のインターンシップを実施してまいりました。専攻に在籍する4名の教員を代表して表彰していただいたものと考えております。

本専攻のインターンシップは正規の科目として1年生の前期に「インターンシップ・リテラシー」(15回)を履修し、学生の適性に応じて夏休みに受け入れ企業に実習に行くという形をとっております。「インターンシップ・リテラシー」では実習に参加させてにあたって必要な履歴書の書き方、ビジネスマナーなどを学ぶほか、社会人とのコミュニケーションをとるための準備として学内の上級生や学外の社会人へのインタビューなどを行い、少しづ

つ社会人とのコミュニケーションをとるための準備として学内の上級生や学外の社会人へのインタビューなどを行い、少しずつ社会人としての心構えを身に着けるようにしています。コロナ禍の2020年、2021年はオンラインでの実習、あるいはオンラインと対面のハイブリッドによる実習を模索し、途切れることなく実習を行ってきました。2023年度は初めてPBL型のインターンシップを実施しました。従来型のインターンシップでは、企業に行って初めて実習内容に取り組むこととなりますが、それでは準備が不十分だったり満足度も低かったりすることが課題でした。PBL型では、「インターンシップ・リテラシー」の授業内で受け入れ企業に来校していただき、夏休みの実習で取り組む課題について説明を受け(5月)、中間発表として学生のプレゼンテーションを行い、その場でコメントを頂き(7月)、夏休みの実習中に社員の方に助言を頂きながら課題を完成するという流れで行います。初めての試みで学生の負担も少なくはありませんでしたが、学生、企業とも大変満足度の高い実習になりました。改めてインターンシップの重要性を感じ、今後につなげていきたいと考えております。



京都光華女子大学
キャリア形成学部キャリア形成学科
講師
こ とう
呉 鴻

実戦的現場を通して社会実践力を養う

この度は、実務教育優秀教員として表彰していただき、誠にありがとうございます。

私が所属するキャリア形成学部では、「現代社会学」、「生活科学」、「経営学」3つの領域をまたがり、多様な学びを通して人と社会に貢献できる女性の育成を目指しています。そのうち、私が担当している「クリエイティブ」系科目では、映像制作からビジュアルデザインまで、教室での正課のみならず、実戦的現場等を提供することによって、学生のスキル及び創造力を磨きながら、経営や現代社会の諸問題に挑戦できるようにプロジェクト形式を多く取り入れています。「夏には映像配信、冬にはプロジェクションマッ

ピング」。私のゼミで学ぶ学生は、夏休みに実施する「模擬結婚式」や「アップサイクル・ファッションショー」と連携し、業務用の機材を用いて

Youtubeへライブ配信を行います。冬には、府内の高校と連携しプロジェクションマッピングを実施します。これらのプロジェクトは地域の恒例イベントとなりつつあります。授業で学んだ知識を社会へのアウトプットすることによって、学生は確実に企画力と技術力を身につけていきます。

そのほか、京都市西陣地域の過疎化課題を改善するための啓発動画・写真集作成や、京都伏見の酒造と連携して「若い女性に好まれる日本酒」を企画・製造するなど、学生主体となる産官学連携を推進しています。学生の地域社会の課題解決への意識を高める取組みは2年連続京都府・京都市の助成事業に採択されています。

実践的学びを取り入れ、より即戦力を持つ人材を育てることを目指し、このたびの表彰を励みに更なる努力をしてみたいです。本表彰にあたり、本学教職員の方々ならびに審査に携わられた皆様に心より厚く御礼申し上げます。

全国大学実務教育協会資格の体系

—就業力・汎用的能力・幅広い専門分野の実務力、専門分野のスペシャリスト志向の実務力の習得を目指す—

教養・基礎教育分野

専門教育分野

就業力・汎用的能力
幅広い専門分野の実務力

専門分野のスペシャリスト
志向の実務力

資格の分類

- <大学と働く現場をつなぐ就業力を養う>
 - ・実践キャリア実務士
- <職業人に求められる基礎的・汎用的能力を身につける>
 - ・情報処理士 ・ビジネス実務士 ・秘書士 ・プレゼンテーション実務士
- 教養・基礎教育分野
 - <進化する産業分野に対応した実務力を身につける>
 - ・上級情報処理士 ・上級ビジネス実務士 ・上級ビジネス実務士(サービス実務)
 - ・上級秘書士 ・上級秘書士(メディカル秘書)
 - ・データサイエンス・AI実務パスポート ・上級データサイエンス・AI実務パスポート
 - <国際社会に対応した実務力を身につける>
 - ・上級ビジネス実務士(国際ビジネス) ・上級秘書士(国際秘書) ・国際ボランティア実務士
- 専門教育分野
 - <教育・福祉の専門分野に特化した実務力を身につける>
 - ・こども音楽療育士 ・園芸療法士 ・カウンセリング実務士
 - <ビジネスの専門分野に特化した実務力を身につける>
 - ・ウェブデザイン実務士 ・観光実務士 ・環境マネジメント実務士 ・上級環境マネジメント実務士
 - <地域社会の専門テーマに特化した実務力を身につける>
 - ・生活園芸士 ・社会調査アシスタント ・社会調査実務士

06 } 協会からのお知らせ

1 2022年度資格認定証授与数

2022年度の資格認定証授与数は、7,516件で、大学2,415件、短期大学5,101件、資格認定授与数の総数は、663,050件となりました。

2 2023年度評議員の異動について

新任

宮田 徹

富山短期大学 副学長

3 2024年度教員研修・養成講座について

(1) 第1回教学マネジメント教職員研修講座 —教育の質保証・向上を目指して—

[①テーマ: 教学改革と大学のブランド化]

8月24日(土)

8月25日(日)

[②テーマ: 学びの技法・授業デザイン・FD]

8月31日(土)

9月21日(土)

定員 30名(先着順) 参加費
①, ②両方の研修講座を受講 120,000円
①, ②いずれか一方を受講 80,000円
②の2日目FDのみを受講 40,000円
※昼食およびテキスト代等含む (消費税込み)

(2) 第6回大学実務家教員養成講座 —スムーズな教育研究活動を目指して—

[A領域 テーマ: 大学理解と教育力の準備]

10月26日(土)

10月27日(日)

[B領域 テーマ: 授業の基礎力と実践力の高め方]

12月 7日(土)

12月 8日(日)

定員 30名(先着順)
参加費
A・B2領域受講 120,000円
1領域のみ受講 60,000円
※昼食およびテキスト代等含む (消費税込み)

4 2024年度会員校等代表者交流会 (対面セミナー・オンラインも可)

11月(日程調整中)

5 令和6年能登半島地震で被災された会員校へのお見舞い

令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ心からのお見舞いを申し上げますとともに、犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表します。

被災地域の皆様及び被災された会員校の皆様の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

被災された当協会の会員校にはお見舞金をさしあげました。

◇被災された会員校: 金城大学短期大学部、金沢学院大学、金沢学院短期大学

人材に関わる
お悩みがあれば
気軽にご相談ください。

**ワンストップ制のスタッフアイだから
ベストマッチの人材提供が可能です!**

**メイン職種
オフィスワーク**
大学事務、総務事務、
広報など

対応可能エリア
東京を中心とした**関東**エリア
大阪を中心とした**関西**エリア

〒104-0031
東京都中央区京橋2-5-21 京橋NSビル8階
03-3562-7808
info@staffi.co.jp 担当：出口

永和監査法人
EIWA AUDIT CORPORATION

私たちは、法人が抱えるリスクや問題点を把握し、理解し、的確な監査手続を提案、選択しています。メンバーで話し合いを行い、業務を進め、クライアントに対して持続可能な成長戦略を掲げています。公認会計士に興味のある、または公認会計士の勉強をしている学生の募集をしています。

法人名	永和監査法人
設立	2005年4月
住所	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町5-1 兜町第1平和ビル4階
連絡先	Tel 03-6661-2110
エントリーフォーム	https://eiwa-audit.com/entry-form/

**ITでオフィスを
元気にする**

<https://www.otsuka-shokai.co.jp>

株式会社 大塚商会
東京本社 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4
札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡

**うちの子
アート**
オリジナルグッズ工房

P&i
株式会社ピー・アンド・アイ
〒222-0001
神奈川県横浜市港北区榎町4丁目14番25号
TEL 045-834-9277 FAX 045-834-9278
www.p-a-i.co.jp

**明治が
令和に甦る**

有限会社エーゼット藤
オモイロぶろじえくと事務局
TEL 045-716-9961

ラーメン 900円～

**リゾットまで美味しい
至極の一杯**
野菜120g分の栄養が凝縮！
最後の一滴まで楽しめる至極の一杯を。

つけめん 1100円～
鶏ポタタン麺 1200円～
トリポターナ 1200円～
スパイシーポタ 1200円～

大門店 (東京都港区)
お茶の水店 (東京都千代田区)
蒲田店 (東京都大田区)

詳細はHPをご覧ください

大学教育の質保証・向上を目指すための講座

教学マネジメント教職員研修講座

対象：大学・短大の教学運営の責任者、特にFD,SDに関わる教職員

講座の目的

学修成果・教育成果の可視化及び教育改善のPDCAサイクル(内部質保証)の確立を通して、大学ブランド化のための教学マネジメントを促進させるとともに、学修の技法や学修の評価について学ぶための研修講座プログラム

①日程		②日程	
教学改革と大学のブランド化		学びの技法・授業デザイン・FD	
8/24(土) 9:30~17:30	8/25(日) 9:30~17:30	8/31(土) 9:30~17:30	9/21(土) 9:30~17:30
会場 アルカディア市ヶ谷 東京都千代田区九段北4丁目2-25		会場 アルカディア市ヶ谷 東京都千代田区九段北4丁目2-25	
定員:30名		定員:30名	
参加費			
① & ② (2領域とも全日程)		120,000円	
① or ②どちらか1領域のみ		80,000円	
②の2日目FDのみを受講		40,000円	
※昼食およびテキスト代等含む(消費税込み)			

申込締切:2024年7月12日(金)

詳しくは当協会HPをご覧ください

大学実務家教員養成講座

対象：大学教員を目指している企業等在席の方、大学在席の実務家教員の方

講座の目的

高等教育に携わる教育者としての自覚と準備を促し、授業や教育の改善に結びつく教育力を身につけるとともに、「研究力」や「マネジメント力」を兼備した未来志向型の大学人の養成を目指す研修プログラム

A領域 大学人基礎力と 教学マネジメント力		B領域 大学授業の基礎力と 授業実践力	
10/26(土) 10:00~17:30	10/27(日) 10:00~17:30	12/7(土) 10:00~17:30	12/8(日) 10:00~17:30
会場 TKP市ヶ谷 東京都新宿区市谷八幡町8番地		会場 アルカディア市ヶ谷 東京都千代田区九段北4丁目2-25	
定員:30名		定員:30名	
参加費			
A・B(2領域)		120,000円	
1領域のみ		60,000円	
※昼食およびテキスト代等含む(消費税込み)			

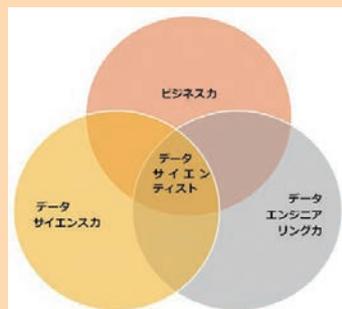
申込締切:2024年9月13日(金)

詳しくは当協会HPをご覧ください

公的機関、企業、各種法人が求める課題に対応する能力が修得できる資格

データサイエンス・AI実務パスポート

データサイエンスやAIを活用するための基礎知識を有し、実務を適切に実践できることを目指します



文部科学省の認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」(リテラシーレベル)の学修目標に沿って当協会が独自に設定した能力基準に基づいています。

- ・この資格を活かせる業務…作業時間を短縮したい、手順を簡素化したいなどの課題を解決するために、作業の流れや作業時間のデータを分析、解決して改善することができます。情報社会において、対象となる課題を発見・分析し、客観的に捉え、創造的に解決する能力が社会のために役立ちます。
- ・開発する能力…情報社会における情報の知識、情報社会において情報を収集・分析する基本技能、課題発見力・分析力・表現力と共有化の技能など



一般財団法人 全国大学実務教育協会
Japan Association of University and College for Business Education

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル二階

TEL:03-5226-7288 FAX:03-3263-8633

E-mail:jaucb@jaucb.gr.jp URL:https://www.jaucb.gr.jp

